

『GC Aadva システムと CAD/CAM 冠』

近年、歯科技工業界においても急速にデジタル化の波が押し寄せ、インプラント・ジルコニア等、CAD/CAM を使用して行う技工が増えてきております。

平成 26 年度診療報酬改定により、先進医療で行われていた「歯科用 CAD・CAM システムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴」が保険適用に了承されました。

今後はさらに歯科技工のデジタル化が進むのではないのでしょうか。

今回は「Aadva システム」の紹介、保険導入の背景、CAD/CAM 冠製作のための支台歯形成から設計、装着の流れと注意点をお話しさせていただきます。

また、皆様には CAD による設計をご体験していただければと思います。

曾我部 元尚 (ソガベ モトヒサ)

【略歴】

- 2002 年 札幌歯科学院専門学校 卒業
- 2003 年 北海道医療大学歯学部 歯科技工研修課 卒業
- 2004 年 医療法人社団 尾崎歯科 勤務
- 2008 年 株式会社ジーシー 北海道営業所 勤務
- 2014 年 日本顎咬合認定技工士 取得

『共に語ろう！歯科技工士のこれから』

公益社団法人日本歯科技工士会 会長 杉岡 範明

「健康は歯から」と言われるように、以前にも増して、医療の中で「専門的口腔ケア」の重要性が高まっている。特に最後まで自分の口で食べることが、QOLに欠かせない要件でもある。

現在の歯科医療は、歯科医師と歯科衛生士、そして歯科技工士の連携によって行われるが、その歯科技工士の高齢化と若年層の減少傾向が顕在化してきた。このままでは、歯科医療の連携が危ぶまれると言っても過言ではない。

一方、CAD/CAM装置等デジタル技術の歯科技工への応用によって、これまでの手技を中心としてきた業務の効率化の可能性も伺える。このような社会環境の変化に、歯科技工士が医療関係従事者として誇りと責任を抱いて、歯科医療及び口腔保健等の増進にどのように寄与していくか、一人ひとりがしっかりと考えていかなければならない。

歯科技工士のナショナルセンターである日本歯科技工士会も日技新発展『7』プランを発表し、組織の新たな価値創造を目指している。

間もなく、創立60周年を向かえる今こそ、歯科技工士のこれからの共に語ろう。